

●新コーナー

ちょっとミミヨリ健康学 ①  
身近な健康・医療情報を、大阪大学の研究者がちょっとミミヨリとしてお届けするコラム。

## 超緊急疾患“脳卒中”とは

— Time is brain —  
脳卒中から脳を救うためには一刻の猶予もありません



Fig1. ドクターヘリによる脳卒中患者の救急搬送



●センター長／大阪大学大学院医学系研究科神経内科学 教授  
望月秀樹 — Hideki Mochizuki

— 脳卒中とはどんな病気ですか？

脳卒中とは、①脳に栄養を送る血管が閉塞して脳組織が傷害される脳梗塞、②血管が破綻して起こる脳出血、③動脈の瘤が破裂するくも膜下出血の総称です。突然発症するのが特徴で、その7割は脳梗塞です。

— 脳卒中の症状とはどのようなものですか？

突然、片側の腕や足、顔の運動麻痺、言葉の異常、片側の視野の異常で発症します。重症の場合は、意識障害や両側眼球の片側への偏位が見られます。また、くも膜下出血の場合にはこれまで経験したことがないほどの激しい頭痛が突発します。

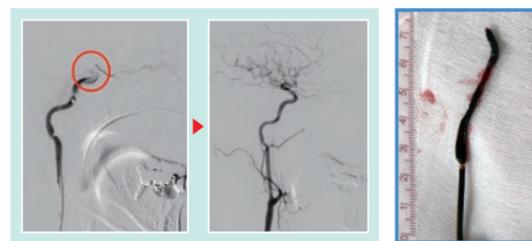
— 脳卒中を疑ったらどうすれば良いですか？

脳卒中は発症後できるだけ早くに治療を開始すれば、劇的に症状が改善したり、後遺症をかなり軽減できたりします。前に述べたような症状が出ておかしいと思ったら、すぐにかかりつけ医ではなく救急隊(119)に連絡することが大事です。救急隊は、脳卒中の治療を迅速に行える脳卒中センターを把握しており、直ちに搬送してくれます。脳卒中、とくに最も多い脳梗塞の治療は1分1秒を争いますので、救急隊をすぐに呼ぶことが肝要です。医療過疎地であってもドクターヘリが利用できる地域が広がってきていますので、適切な病院に搬送できる体制が整いつつあります(Fig1)。

脳卒中センターのある病院に一刻も早く到着できれば、閉塞した血栓を溶解できる薬やカテーテル治療の進歩により、

迅速に高率に閉塞した血管を再開通させることができるようになっていきます(Fig2)。この処置を脳組織がもう元に戻らない傷害を受けてしまう前に受けることで、症状の軽減が得られ、その後の生活の質が大きく変わってくるようになります。

Fig2. 閉塞した血管と再開通した血管(左)とカテーテルで回収された血栓(右)



— 大阪大学病院では脳卒中を診てもらえますか？

大阪大学医学部附属病院脳卒中センターでは24時間専門医による緊急治療を行える体制を構築し、少しでも多くの脳卒中患者さんを元の生活に戻って頂けるように、日々邁進しています。

### ■大阪大学医学部附属病院脳卒中センター

高度救命救急センターを窓口とし、24時間体制で高度救命救急センター、脳神経外科、神経内科・脳卒中科の医師が待機し、脳卒中の患者さんを受け入れる。老年・高血圧内科、放射線部、リハビリテーション部、看護部、保健医療福祉ネットワーク部などと連携、地域医療機関と協力して、再発予防、リハビリテーションや患者さんの家庭復帰、社会復帰を目指す。

[URL] [http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/departments/cerebral\\_stroke.php](http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/departments/cerebral_stroke.php)

●新コーナー

となりの研究者さん Vol. 1

大阪大学の研究者が身の回りのできごとを自身の研究と絡めて綴るコラム。今回は、NHK「オイノミア」でもおなじみの経済学者、大竹文雄教授が登場！

## 寿命の関係と芥川賞・直木賞



Ryunosuke Akutagawa



Sanjugo Naoki



●社会経済研究所・教授(経済学)  
大竹文雄 — Fumio Ohtake

●大竹文雄(おおたけ ふみお)  
1983年京都大学経済学部卒業、85年大阪大学経済学研究科修了。同年大阪大学経済学部助手、88年大阪府立大学経済学部講師、90年大阪大学社会経済研究所助教授を経て、2001年から現職。

[URL] <http://www.iser.osaka-u.ac.jp/~ohtake/>

毎年1月中旬には、芥川賞と直木賞の発表がある。芥川賞は純文学を対象として無名あるいは新人作家に与えられ、直木賞は大衆文学を対象として主に中堅作家に与えられる。受賞者には、正賞として懐中時計、副賞として100万円が贈呈される。それだけではなく、芥川賞・直木賞ともに、受賞者は小説家としての評価を確定させ、その作品がベストセラーとなることも多い。大阪大学の関係者では、第19回(1944年)の岡田誠三、第42回(1959年)の司馬遼太郎、第60回(1968年)の陳舜臣と、3名の大阪外国語大学の卒業生が直木賞を受賞している。

どちらも非常に名誉ある文学賞であるが、実はこの二つの賞は、受賞者の健康に正反対の影響を与える。私たちが行った研究によれば、芥川賞の受賞者は、候補になったけれど受賞しなかった作家よりも約2年長生きする。一方、直木賞の受賞者は、候補になったけれど受賞しなかった作家よりも約5年短命になる。

賞の受賞者の寿命を調べることにどういう意味があるのか、と不思議に思われるかもしれない。実は、この研究は社会的格差が健康に与える影響に関する分析の一つなのだ。一

般に社会的地位が高い人や所得が高い人の方が、貧困な人たちよりも平均的に健康で寿命が長い。しかし、この事実から所得格差が健康格差をもたらすとは言えない。なぜなら、健康な人がより多く働き高い地位や所得を得ているかもしれないからだ。同じような能力や健康な人たちの間で、社会的地位や所得の格差が偶然に異なる事態があれば、所得格差から健康格差への因果関係を推定することができる。賞の候補者の中で受賞者と非受賞者の差は、この因果関係を推定する絶好の機会なのだ。

純文学の新人賞である芥川賞の場合は、所得を高めることが寿命を長くし、大衆文学の中堅作家向けの直木賞の場合は、多忙になりすぎて健康を悪化させる効果の方が大きいのだろう。大統領や首相になった人は選挙で敗れた候補者よりも短命だという研究もある。この研究結果を聞いた直木賞作家の西加奈子は「寿命が短くなっても欲しかった」と述べていた。読者の皆様には、健康には十分留意して今年も活躍されることを祈念したい。

《Next Columnist》次回は、大竹教授からのご紹介、生命機能研究科の仲野徹教授が登場します。